

尾張自然観察会通信

2024年3号

発行3月1日



ウスギモクセイ (モクセイ科)

キンモクセイとともにギンモクセイの変種とされています。花の色は「薄黄」と名付けられているように、キンモクセイより淡く、ギンモクセイより黄色味を帯びていることが多いものの、変化が大きいようです。

近所の生垣の株は四季咲きタイプで、秋に多数咲いた後も、少数ながら初夏まで咲き続けます。(写真は2023/4/4に撮影)

=====目次=====

当面の行事案内	1
会員のみなさんへのおしらせ	2
定例観察会報告	3
善師野自然観察会 (1月)	3
尾張北部自然観察会 (2月)	4
森林公園自然観察会 (2月)	5
木曽川下流自然観察会 (2月)	6
海上の森自然観察会 (2月)	7
日進岩籾川自然観察会 (2月)	8
知っておきたい尾張の自然・風景 小牧山	9

当面の行事案内

■定例観察会

日付	場所	催行時間	集合場所	担当	連絡先
3/2 (土)	明德公園	9:30~12:00	明德公園西駐車場入り口表示板	辻	080-3073-6827
3/2 (土)	尾張北部	9:30~14:00	さら・さくら第2駐車場	木村	080-3642-8304
3/3 (日)	森林公園	9:30~12:00	森林公園案内所	出口	080-4309-2701
3/10 (日)	木曽川下流	9:30~12:00	138タワー玄関前	齋竹	0587-37-7616
3/16 (土)	海上の森	10:00~15:00	海上の森駐車場	内海	090-9912-3686
3/17 (日)	日進岩籾川	9:30~12:30	日進市総合運動公園の駐車場	鬼頭	0561-38-2792
3/23 (土)	善師野	9:30~15:00	善師野駅前 (農道駐車不可)	平井	052-504-5223
3/28 (木)	築水池	9:30~14:00	春日井少年自然の家第3駐車場	松尾	0568-32-5069
4/6 (土)	明德公園	9:30~12:00	明德公園西駐車場入り口表示板	辻	080-3073-6827
4/6 (土)	尾張北部	9:30~14:00	さら・さくら第2駐車場	木村	080-3642-8304
4/7 (日)	森林公園	9:30~12:00	森林公園案内所	出口	080-4309-2701

通信に掲載したい事項やメールアドレス変更などがありましたら、下記担当者までお知らせください。

<編集担当> 齋竹善行

住所: 〒482-0007 岩倉市大山寺元町 12-3 メールアドレス: BZA03620@nifty.ne.jp

会員のみなさんへのおしらせ

■愛知県自然観察指導員連絡協議会総会 & 記念講演会

日時 2024年3月20日(水・祝) 13:00 受付開始

場所 日本特殊陶業市民会館(名古屋市中区金山一丁目5番1号) 3階第1会議室

総会 13:30~14:30

記念講演 14:40~16:00

演題 「ムシが語る昔ばなし〜ムシとヒトの災害史の研究」

講師 森 勇一 氏 (環境史学、愛知県環境審議会地質部門長)

【講師プロフィール】

名古屋市出身。三重大学大学院生物資源学研究科博士課程修了。愛知県立津島高等学校教諭、愛知県埋蔵文化財センター課長補佐、国際日本文化研究センター共同研究員・同客員准教授、金城学院大学などを経て、現在東海シニア自然大学講師。愛知県史・三重県史・名古屋市史・日進市史など多くの自治体史執筆のほか、以下の著作がある。

『地球の歴史名探偵 ガラスの雨が降る夜』(風媒社)・『アンモナイトの約束』(同)・『東海のジオサイトを楽しむ』(同)・『東海・北陸のジオサイトを味わう』(同)・『ムシの考古学』(雄山閣)・『続ムシの考古学』(同)、『環境考古学ハンドブック』(朝倉書店)・『新しい研究法は考古学に何をもたらしたか』(クバプロ)・『縄文文明の発見』(PHP 研究所) (以上共著)。

詳細は3月に送付される協議会ニュースと同封リーフレットでご確認ください。

■eメールは届かないことがありますのでご注意ください

尾張自然観察会では会報の「尾張自然観察会通信」をeメールに添付して送っていますが、受け取ることができていますか。

最近、Gメールが届かないことがあると新聞報道されました。

日経新聞記事 2024/2/15 「メールが届かない Gmail利用者への「お願い」に違和感」

記事の最初の部分は「神奈川県教育委員会が2024年1月9日に開始した公立高校の出願システムでトラブルが生じている。利用者が米グーグルのメールサービス「Gmail」のアドレスを登録しても、手続きに必要なメールが届かないというものだ。」と書かれています。(登録会員以外は全文を読むことができません。)

私も自分のメールボックスに届いたメールをクラウドで保存するため全てGメールのアドレスに自動で転送するように設定していますが、時々転送されていないことがあります。(原因不明)

尾張自然観察会通信は原則毎月1日に送信しますので、2日までに届かない場合はお問い合わせください。不達ならば再送いたします。

また、尾張自然観察会のWebページ (<http://owarishizen.starfree.jp/>)にも通信が掲載されていますので、そこで閲覧することもできます。

定例観察会報告

第335回 From 善師野 2024. 1. 27 (土) 晴 指導員3名 一般16名

1月は恒例のいつもと違った道歩きです。今回は以前にも歩いたコースで、気になったキクを探しに行きました。いつもと反対側の県道186号線を渡り、緩やかな谷津田の道を登って行きます。途中に大きなキリが数本あり、キリの種が落ちていました。中にはまだ種が残っているものがあり、その中には翼を持った小さな種が無数に入っていました。谷津田は下の段にはムギが植えられ、上の段には水田になっていました。登りつめたさきにはため池があり、カルガモに混じってオシドリとホシハジロが1羽ずつ見られました。その先には2つのトンネルがあり、まず尾張パークウェイをくぐり、さらに国道41号線をくぐって、東京大学の演習林に入ります。ここで昼食にして、来た道に戻りました。帰りには無事に探していた黄色い野菊のシマカンギクを見つけ、ベニマシコにも出会うことができました。 (平井)



キリの種はペールのような翼



ゴマダラチョウの幼虫発見



タイムスリップの瞬間



白実のカラタチバナ



花の山、藤原岳を遠望



葉がペラペラ、シマカンギク



カラフル、イチモンジカメムシ



夢中で探す！



害虫、イセリアカイガラムシ

尾張北部自然観察会

2024年2月3日（土）晴れ

参加者 指導員（木村、太田、霜、角田、山田、後藤、後藤）7名 一般5名 計12名

快晴で節分というのに春の暖かさです。各務原の河川環境楽園で冬の植物観察を行いヒメシャラ、コマユミ、ハクウンボク、ザイフリボク等の冬芽を見ていきました。去年は咲いていなかったロウバイ、ソシンロウバイ、ウメが見頃で香りも楽しめヒュウガミズキ、サンシュユも花芽がふくらんでいます。期待していたセツブンソウはあと一息でしたが、薄紫色のミスミソウが数輪開花していました。藍色のノシランの種子はジャノヒゲより大きく、中の胚乳を取り出してスーパーボールのように弾ませてみました。サイカチの刺に触れたあと大型の莢を分解してみると種子は薄く小さいのが予想外でした。溪流では早くもバイカモの白い花が咲いていました。

昼食後のエーザイ薬用植物園ではハンカチノキの実を拾い、カシワ、ミツデカエデ、テンダイウヤクの葉、カギカズラのカギ状の刺、コブシのようなオガタマノキの実などを観察しました。温室ではコショウ、ビャクダン、イランイランノキ等の花を見て、普段目にしないものも楽しめた一日でした。（後藤）



森林公園観察会 レポート No361

【日時】2024年2月4日9:30~12:00 【天候】晴 【気温】最高14.2℃、最低5.4℃(名古屋)

【参加者】指導員13名(高橋征、高橋か、出口、松原、木村絢、小林、木村真、石川、岡島、渡辺、内海、太田、霜)、一般6名、計19名

観察会の前に、木村絢子さんから「冬芽と芽出し」の絵を参加者全員に頂きました。木村さん、ありがとうございます。描かれた植物の特徴を学んで精進します。今日の観察テーマは、春を待つ冬芽、そこそこ咲いた梅、春一番に咲くと嬉しいマンサクや草花、地味な花をつけたゼニバサイシンとスズカカンアオイなどの観察♥ 観察ルートは、児童公園~沈床花壇~梅園~郷土の森~水生園~花木区~こどもの森/クヌギ林~展示館付近。はじめに、新聞掲載記事「80億人の食を支える土」から土の大切さ、スズカカンアオイやゼニバサイシンの特徴等の解説のあと観察会スタート。観察した主な植物等と観察ポイントや学びは以下の通り。

【児童公園】モミジバフウ(鱗芽; 先の尖った円錐体に花芽/葉芽、実; 中に詰め物とタネ)、ハリエンジュ(隠芽; 冬芽は葉痕の中に隠れていて春になると突き破って芽を出す、トゲは托葉が変化したもの)、アオギリ(鱗芽; 毛が密生した大きな半球の頂芽に花芽と葉芽・小さい側芽に葉芽)、アカメガシワ(裸芽; 毛が密生した大きな頂芽・小さくて丸い側芽)、エゴノキ(裸芽; 扁平な長卵形で毛が密生・主芽の予備軍となる副芽を伴う)

【沈床花壇】ホトケノザ(花)、ヒメオドリコソウ(花)、オオイヌノフグリ(花)、ツバキ(花)、サザンカ(花)

【梅園】ウメ 80種(3割弱が開花; 紅冬至・大湊・楊貴妃・大盃・枝垂梅・野梅・青軸・文殊・八重海棠・武蔵野・道知辺・米良・小輪緋梅・都錦・虎の尾・金筋梅・八重寒紅・思いの儘・紅鶴・紅珊瑚・旭鶴・玉垣)、アセビ(花)

【水生園】ハンノキ(裸芽; 葉芽/雄花序/雌花序)、ニホンアカガエル(卵; 親は近くの土手の積もった枯葉の下を棲家とし産卵の時だけ水辺に行く)

【花木区】マンサク(花、枝にモズのはやにえ; モズが捕らえた獲物をなわばりの中の木の枝などに突き刺しておいたもの、はやにえの消費量が多いほどオスの歌の質が高くなって求愛行動がうまくいくようになるらしい)

【こどもの森/クヌギ林】ゼニバサイシン(花)、スズカカンアオイ(花)、コアカミゴケ(子囊地衣類で朱色の部分は子器; 胞子が入っている・「モンローリップ」との呼び名も、アカミゴケとの違い; 子柄に分枝がみられ 先端まで同じ太さで子器が子柄の先端部についているがアカミゴケは子柄が分枝せず棍棒状かつ先端がラッパ状の盃になり子器は盃縁か盃縁から出た太い柄の先につくことから)



木村絢(画)

霜(記)



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2024年2月11日(日) 9:30~12:00(快晴)

参加者 一般:5名

指導員:内海、太田、木村、安田、渡辺、齋竹

テーマ 植物の冬越し

今回のテーマは冬越しの植物ということで、冬芽やロゼットに注目して回りました。

川原でシンジュとセンダンの冬芽や葉痕を観察しました。シンジュの葉痕はハート形でたくさんの維管束痕がみられ、葉痕のすぐ上には側芽があり、2枚の芽鱗に覆われています。枝の先端には仮頂芽がついています。センダンの葉痕はT字形で、3つの維管束痕を目や口に見立てると動物(サル又はヒツジ)の顔のようです。側芽はシンジュと比べると大きく、細かい毛が密生しています。

堤防道路の脇の桜の中間の冬芽も見比べてみました。いずれも芽鱗が目立ちますが、頂芽が1つだけのもものと、頂生側芽が何個かついているものも見られました。

桜の木の下で、ロゼットを観察しました。ブタナとタンポポは葉の形は似ていますが、葉の厚さや毛の有無で触った感じが全く異なることを確認しました。その近くではチチコグサ、ウラジロチチコグサ、オオアレチノギクなどキク科のロゼットがたくさん見られました。日当たりのよい場所のスイバは葉が伸び始めてロゼットらしくない形状になっていました。

大野極楽寺公園の池の畔では1月頃から咲き始めるハンノキを観察しました。枝先から長い雄花序が垂れていて目立ちますが、まだこれから花粉を飛ばすものと、すでに役割を終えて落ちているものがありました。雄花序のついてる枝の少し下に雌花がついています。

野鳥ではまだ赤い実が残っているクロガネモチの周りなどでツグミの姿が見られるようになりました。これまでも少数は見られましたが、やっと個体数が増えてきた感じです。

川原は堤防道路下の木竹、草が刈られて見通しがよくなり、更地の上をキジが飛んで行く姿や、川面に浮かんだオオバンやキンクロハジロ、さらに対岸の木の枝に止まったノスリの姿も見る事ができました。

今季、アトリやマヒワの群がきていないためか、大野極楽寺公園のアキニシの木には翼のある実がたくさん残っており、カワラヒワの群が来て啄んでいました。

風もなく暖かな日だったので、蝶が飛びかかと気を付けていましたが、出現しませんでした。来月には蝶や甲虫などが見られ、ウグイスの囀りも聞かれそうです。(報告:齋竹)



(ロゼットを観察しているところ)

<その他観察できたもの>

鳥:トビ、キジバト、モズ、ヒヨドリ、シロハラ、アオジ、メジロ、スズメ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ベニマシコ(声)、ジョウビタキ(声)、シメ(声)ウグイス(声)

花:ニホンタンポポ、ホトケノザ、オオイヌノフグリ、ソシンロウバイ、ウメ、ミヤマウグイスカグラ、ボケ



シンジュの葉痕と冬芽



ブタナのロゼット



寒中から咲くハンノキの花



まだ残っているアキニシの実

海上の森自然観察会

2024. 2. 17 晴 内海

一般 3名 会員 5名

		
シロテンエダシャク シャクガ科	シロフフユエダシャク シャクガ科	ベニジミの幼虫 シジミチョウ科
		
コガタルリハムシ 卵 ハムシ科		トサカグンバイ グンバイムシ科
		
マンサク マンサク科	観察風景	キラソウ シソ科
		
ヤマガラ シジュウカラ科	ジョウビタキ ヒタキ科	ナラタケの菌糸束

今年の冬は暖かい。いろいろな生き物が、春を迎えようとしているようです。



風が弱くどんよりした雲が広がっていましたが、気温は高く、空気は春のような感じでした。建物内の巣にジョロウグモの雌がじっとしていました。さすがにスマートになっていましたが触ると動き始めました。尾根筋のマンサクを見に行く途中、ツグミやシロハラの声に混じってイカルの囀りを聞くことができました。岩藤川沿いのウメは満開で、ネコヤナギは芽鱗を落とし白い綿毛が見えました。木々の冬芽は膨らみ始めています。 (鬼頭)



シナマンサク 花弁が長く、これ葉が落ちずについていました。以前植えられるところを見たとき聞きました。



フユエダシヤク 2種
上：ヒロバフユエダシヤク
下：シロフフユエダシヤク



似たようなフユエダシヤクですが、見た目にはヒロバの方が大きく見え、翅の前縁を比べるとシロフの方がシュッとしています。横に伸びる波線を比べるとヒロバは3本、シロフは2本に見えます。他にも違いが見えます。



ホウロクタケ

古ぼけて茶色くなった切り株に、厚みのある白い茸が見えました。傘に帯のような筋と瘤状の膨らみがあります。褐色腐朽菌の一種で、近年になってピロリ菌などの繁殖を抑制する抗菌成分が見つかったそうです。



冬芽と葉痕 左：**アジサイ**、右：**ムクゲ**。アジサイは芽鱗が早期に脱落し裸芽が現れます。ムクゲははじめから裸芽です。葉痕の顔が面白いです。



トビモンオオエダシヤク幼虫

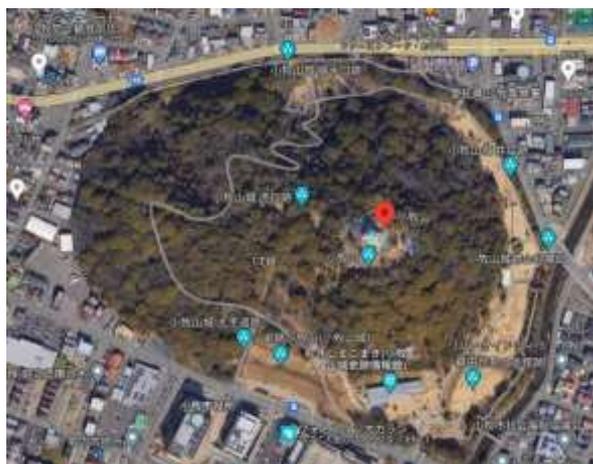
手洗い場の下をのぞくとシヤクガの幼虫が見えました。頭に△の角が2本あります。昨年6月頃蛹になり秋に羽化して産卵。小さな幼虫のまま冬越しています。春になると50mm



ほどに成長し、成虫は翅幅が80mmほどです。



(南側から見た小牧山)



(地図に航空写真を重ねてみた小牧山)

濃尾平野の中央部に位置する小牧山は、標高は 85.9m でそれ程他高くなく、丘と呼ぶ方がふさわしいようですが、周りが平坦なためよく目立ちます。

小牧山は地質的には主にチャートから成り、硬いため周囲が浸食されても丘状に残ったということです。山域は東西約 600 メートル、南北約 400 メートルで、現在は史跡公園に指定され、樹林地の中に散策路が整備されて市民に親しまれる場所となっています。

ここには織田信長が美濃攻めの拠点として 1563 年に小牧山城を築きました。信長没後の 1584 年に豊臣秀吉と徳川家康の間で「小牧・長久手の合戦」が起きましたが、徳川家康がここに陣を敷いたことでも知られています。昨年の NHK の大河ドラマ「どうする家康」でご覧になった方も多いかと思います。

なお、小牧山城は山城で天守閣はなく、山頂にある天守閣風の建物は昭和 42 年に建てられた「小牧市歴史館」です。

小牧山は築城時に樹木が伐採されたと考えられていますが、江戸時代には尾張藩領となり一般の立ち入りが制限されたため、植生が回復し、シイ、カシ、クスノキ、タブノキ、ヤブツバキなどの照葉樹を中心とした樹林が形成されています。タブノキは温暖な地域の海岸などで普通に見られる樹木ですが、この辺りでは小牧山だけに自生しているということから、小牧市の「市の木」に指定されています。また、観光を意識してか、サクラ、ウメ、ハゼノキなどが植栽された場所も見られます。

市街地に囲まれています。また、まとまった樹林があることから野鳥の姿も多く、オオタカなど猛禽を見かけることもあります。また、ヒメボタルが生息していたという記録もあります。そのため、いろいろな団体がここで探鳥会や自然観察会を開いています。尾張自然観察会も 2006 年に小牧市の委託事業「市民環境講座」で観察会を開催しています。

小牧山に登って北東方向を眺めると 3km 程先に孤立した岩崎山 (標高 54.6m) が見えます。こちらは地質的には花崗岩から成っていて、近くにある 2 つの山が全く異なる性質を持っているとは驚きですね。(齋竹)



(天守閣のように見える小牧市歴史館)



(照葉樹林の中の散策路)